

令和3年10月施行「点検基準の改正」に係る 点検の対象となる警告灯について

自動車※の定期点検基準の点検項目について、令和3年10月1日より、「OBD(車載式故障診断装置)の診断の結果」が追加され、1年ごとに点検することが義務化されます。

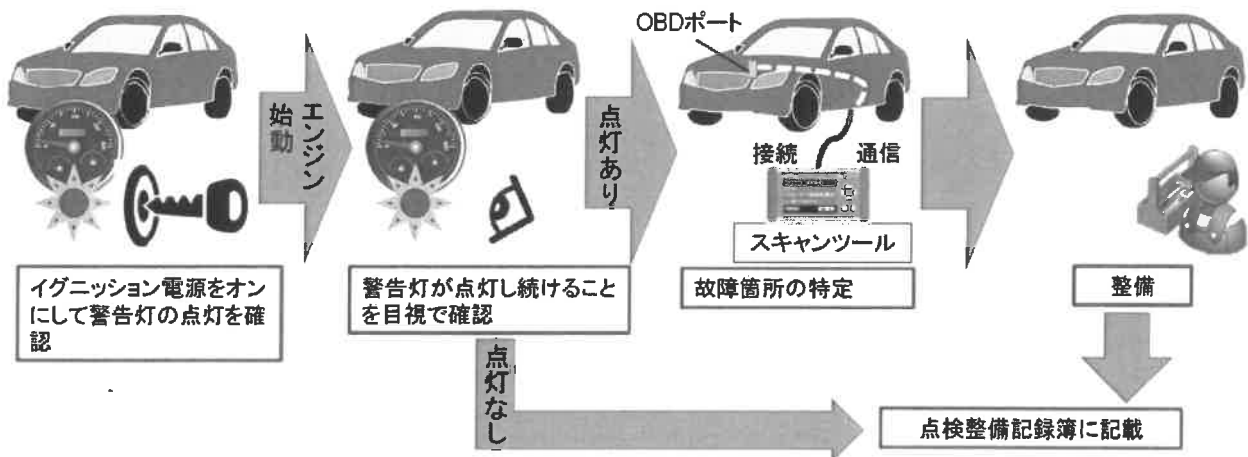
(※OBDの診断結果の点検項目追加については、大型特殊自動車、被牽引自動車、二輪自動車は対象外)

点検の実施方法としては、警告灯を確認、もしくはスキャンツールを用いて確認する方法で行いますが、警告灯の意匠は、自動車メーカー共通の意匠と、一部の意匠については各社によって異なるものがあることから、警告灯一覧を掲載しましたので、点検整備の際にご活用ください。

■点検の対象となる装置

点検の対象は原動機、制動装置、アンチロックブレーキシステム、エアバッグ、自動命令型操舵機能、衝突被害軽減制動制御装置及び自動運行装置となります。

【警告灯を確認する方法での点検整備の流れ】



出典:国土交通省ウェブサイト (<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001332203.pdf>)

■参考資料








【保安基準で定められた警告灯】(自動車メーカー共通の警告灯)

原動機		制動装置		アンチロック ブレーキ システム	
エアバッグ (前方または 前方・側方共用)		エアバッグ (側方)			

詳細はサービスマニュアルまたは、取扱説明書を参照

【自動命令型操舵機能、衝突被害軽減制動制御装置の警告灯(例)】(自動車メーカーによって異なる警告灯)

	いすゞ	スズキ	スバル	ダイハツ	トヨタ	日産
自動命令型操舵機能	マルチディスプレイ 	 または 	マルチインフォメーションディスプレイ 			アシストディスプレイ表示 △警告 システムが故障しているため使用できません
衝突被害軽減制動制御装置						 および アシストディスプレイ表示 △警告 システムが故障しているため使用できません

	日野	ふそう	ホンダ	マツダ	三菱	UD
自動命令型操舵機能	なし	LCD表示 (大型トラック) 	LKAS または 	下記4種    	マルチインフォメーションディスプレイ表示 △警告 	なし
衝突被害軽減制動制御装置	 小型トラック以外  小型トラック	 または  OFF	 または 		警告灯 および マルチインフォメーションディスプレイ表示 	警告灯  マルチディスプレイ表示 プレキII 

詳細はサービスマニュアル※または、取扱説明書を参照
※OEM 車両の警告灯は供給元メーカーを参照